

かかわりを通して学び合う学習をめざして

—低学年「おやつをつくろう」の実践から—

松本典子

1 はじめに

子どもたちは、学校生活の中で、「人やものとかかわること」を通して、日々、様々なことを感じ、考え、学びながら生活している。その中でも、特に、興味をもったことや、やってみたいことには、自分から積極的にかかわり、そこからより多くの発見や学びが生まれていると考える。子どもたちが、心の底から、「やってみたい」、「やってみよう」と思った時の、対象（人やもの）とかかわる力はすばらしい。また、活動への意欲があるからこそ、そのかかわりから得るものも大きいはずである。

そこで、子どもたちの「かかわろうとする力」を、引き出すことができる学習活動を設定したいと考えた。そして、その活動で生まれたかかわりが、お互いの学び合いにつながるには、どういった支援が必要なのかを探っていきたいと思い、今回の実践を行っていくこととした。

2 実践事例「おやつをつくろう」

(1) 単元について

本学級の児童が、好きな活動の一つとして、調理学習が挙げられる。調理活動は、「自分たちで作って食べる」という見通しをもって取り組みやすい学習である。特に、「おやつ作り」は、子どもたちの興味・関心も高い。そこで、子どもたちが大好きなポップコーン作りに取り組むこととした。ポップコーンは、調理内容が簡単であり、種がはじけ、ふくらんでいくという変化があるため、非常に見通しをもちやすく、楽しさを味わえるものである。さらに、短時間で調理できるため、「早くやってみたい」、「早く食べたい」という意欲を活動へ生かすことができると考える。その対象へかかわろうとする力が、お互いの学び合いにつながるように、調理の場やグループ作りを工夫して設定し、支援していきたい。この学習を通して、互いにモデルとなったり、思いを出しあったりしながら活動をすすめ、かかわる力が伸びていくことを期待している。

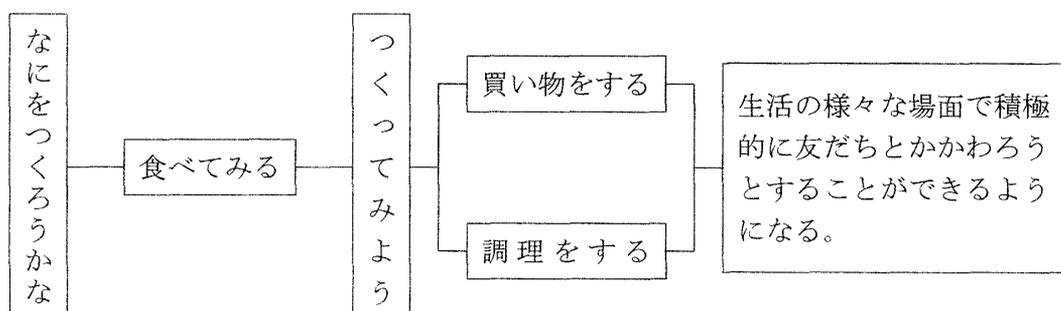
(2) 指導目標

- ① おやつ作りに見通しをもち、意欲的に楽しみながら活動することができる。
- ② 友だちを意識し、互いにかかわりをもちながら調理活動を行うことができるようにする。

(3) 指導内容と計画 3時間

第一次(1)

第二次(2)



(4) 指導の実際 -<第二次 第2時 調理場面について>-

① 本時の目標

調理器具や材料を友だちと共有し、友だちとかわりながらおやつを作ることができる。

② 仮説

いっしょに作るグループや調理の場を意図的に設定し、調理活動を行っていくなれば、互いにかかわりをもちながら、おやつを作っていくことができるであろう。

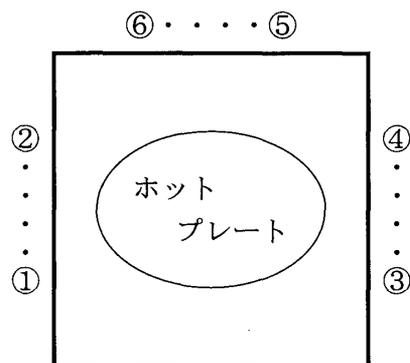
③ 目標行動と教師の支援

(表1)

目 標 行 動	教 師 の 支 援	児 童
調理器具を友だちといっしょに持ったり、材料をいっしょに混ぜたりすることができる。	・教師もいっしょに持ったり混ぜたりする。 ・友だちの働きかけを意識できるようなことばかけをする。	② ⑤
友だちを意識し、友だちに働きかけながらいっしょに調理活動を行うことができる。	・友だちの動きを見たり、友だちの様子に目を向けたりできるようことばかけをする。 ・友だちに働きかけをした時にしっかりと評価する。	① ④
いっしょにやる友だちのことを考えたり、友だちの思いを受け入れたりしながらいっしょに調理活動を行うことができる。	・友だちに働きかけをした時にしっかりと評価する。 ・友だちの思いを分かりやすい言葉にかえて伝える。	③ ⑥

④ グループ作りと場の設定

目標行動と教師の支援(表1)をもとにして、右の図のようにグループを作り、活動を行った。場の設定としては、まず、6人がお互いに活動を見合うことができるようにし、その中央にホットプレートを見た。そして、特に、「友だちの働きかけ」が、支援の一つとなると考えた児童②・⑤については、手がかりとなると予想される児童が両隣りになるように席順を設定した。



(.....で結ばれた番号がそれぞれグループ)



「おいしくなあれ、おいしくなあれ」

また、調理器具(ボール、スプーン等)は、各グループに1つずつとし、二人で交代で持ったり混ぜたりするようにした。そして、ホットプレートは、ポップコーンの種の変化が見えやすいように、ふたが透明なものを使用した。

⑤ 学習の展開

学 習 活 動	予想される活動	教 師 の 働 き か け	
		全 体	個 別
<p>1. はじまりのあいさつをする</p> <p>2. 準備をする</p> <div style="display: flex; justify-content: center; gap: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">材 料</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">用 具</div> </div> <p>3. おやつをつくる</p> <div style="display: flex; justify-content: center; gap: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; writing-mode: vertical-rl;">調 理 する</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; writing-mode: vertical-rl;">食 べ る</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; writing-mode: vertical-rl;">片 づ け る</div> </div> <p>4. おわりのあいさつをする</p>	<p>2. ・必要な材料，用具を準備することが難しいと思われる。 (児②⑤)</p> <p>3. ・今までの経験をもとに見通しをもって活動することができるであろう。 (児③⑥)</p> <p>・自ら進んで活動することが難しいであろう。(児②⑤)</p> <p>・自分の活動のみに集中しがちであろう。 (児①④)</p> <p>・自分のペースで活動を進めるであろう。 (児③⑥)</p>	<p>1. ・学習の始まりとして毎時間位置づける。</p> <p>2. ・準備に見通しをもてるよう各グループにそれぞれ用具，材料を用意しておく。</p> <p>3. ◎友だちの活動を互いに見合うことができるよう調理の場を工夫して設定する。</p> <p>◎友だちとかかわろうとする姿を全体の場で賞賛する。</p> <p>4. ・学習の終わりとして毎時間位置づける。</p>	<p>1. ・本日の当番児童にことばかけをする。</p> <p>2. ・児②⑤には，具体物を示すとともに友だちの動きを見ていっしょに準備できるようことばかけをする。</p> <p>3. ◎児③⑥の発言や動きを賞賛し他児の手がかりとなるようにする。</p> <p>◎児②⑤には，友だちの働きかけを手がかりとしていっしょに作ることができるよう教師もそばで活動する。</p> <p>◎児①④には，いっしょに作る友だちの動きを見るようことばかけをする。</p> <p>◎児③⑥には，友だちの思いを，分かりやすい言葉にかえて伝える。</p> <p>4. ・本日の当番児童にことばかけをする。</p>

3 考察 -<児童②の変容をもとにして>-

今回の実践で、大切にしたい2つのことを視点として、ふり返ってみたい。

まずは、子どもたちの「かかわろうとする力」を引き出すことができたかどうかである。



左の写真の、中央の子どもが、児童②である。児童②は、児童③が（児童②の右側の子ども）、「よーし、まぜよう。」と言ってスプーンを持ち、混ぜ始めたのを見て、自分でさっとスプーンを持って混ぜたのである。この活動の時に、児童②に対して、「教師もいっしょに持つ。」「友だちの働きかけを意識できるようなことばかけをする。」という2つの支援を考えていたが、それは必要なかった。

「ちょっと熱いな。はじけるかな？」

私は、これまでの活動の様子から、児童②の「かかわり」に関する実態を、「指導者といっしょに活動する」段階（表2の◎）と捉えていた。しかし、ポップコーンを作る過程では、児童②は積極的に活動し、そのかかわりの様子は、「友だちの動きを手がかりに活動する」段階（表2の★）であったと言える。

（表2）

<選択についての実態>	< 支 援 >	<集団へのかかわり>
偶然手にした方を選んで いる。	・児童が好んでいるもの を選択肢にする。	◎ 指導者といっしょに活動 をする。
友だちや指導者の模倣に よって選んでいる。	・選択肢のイメージをもつ ことができる具体的な手 かかりを示す。	
好き、嫌いの好みの視点 が明らかになって選んで いる。	・模倣できる場を多く設定 する。	指導者のことばかけで活 動をする。
友だちや指導者の活動へ の関心から選んでいる。	・児童が特に好んでいる活 動の中での選択場面を設 定する。	
友だちや指導者の活動を 見て見通しをもった方を 選んでいる。		▼ ★ 友だちの動きを手がかり に活動する。

過去の経験から見通しの
もちやすい方を選んでい
る。

・過去の類似の体験をイ
メージすることができる
具体的な手がかりを提示
する。

集団での活動の仕方がわ
かり自己主張しながら友
だちとかかわって活動す
る。

自分にとって乗り越えな
ければならない課題の有
無で選んでいる。

・児童が課題と捉えている
ことについて課題達成ま
での見通しをもつことが
できるような具体的な手
がかりを提示する。

集団での活動の仕方がわ
かり自分と友だちの考え
を比較し調整を図りなが
らかかわって活動する。

このような児童②の変容から、ポップコーン作りが、子どもたちにとって、とても魅力的な活動であり、「やってみたい」という「かかわろうとする力」を引き出すために有効な学習活動であったと考えられる。

次に、「かかわり」が、お互いの学び合いへつながる支援ができたかどうかである。



「わー、ポンポンすごいな。」

左の写真から、児童②（中央）と児童③（右）が、互いに寄り添ってはじけるポップコーンを見ている様子が見え始める。この時も児童②は、児童③が、「やったー、すごい。」と言ってホットプレートに近寄るのを見て、自分も「おもしろそう。」と身を乗りだしたのである。この時、児童②が、言葉で児童③へ何かを伝えるということは見られなかったが、児童②の表情から、「ほんとだ、すごい・・・。」と言っているように思われた。

児童②にとって、児童③の言葉や動きは、ポップコーンを作る活動の中で、とても大きな手がかりとなっていたと言える。このような姿から、今回の学習で行った、場の設定とグループ作りの工夫は、学び合いへつながる支援の方法の一つとなると考えられる。

これからの課題としては、今後も今回のポップコーン作りのように、子どもたちが「やってみたい。」と心の底から思い、子どもたちのかかわろうとする力を引き出すことができるような活動の幅を広げ、設定していくことである。また、かかわりから生まれる「学び合い」とは、子どもたちのどんな姿だと考えるのかをしっかりと捉え、その姿につながるより効果的な支援のあり方を探っていく必要がある。